

学位申請者 岸本 麻衣子

論文題目 建築初学者を対象とした建築基礎教育の
課題と改善提案に関する研究

論文審査の結果の要旨

学位申請者の研究は、建築初学者を対象とした建築基礎教育について体系的かつ包括的に分析することで、より教育効果の期待できる建築基礎教育体制の構築に資することを目的としたものである。建築教育に関する既往の研究は、専門科目の教育内容と実務の関連性に焦点を絞ったものや、特定の専門科目の習得状況を探求したものはあるが、建築基礎教育を多角的に分析した論考はみられなく、中・高等普通教育における基礎学力の幅が広がる昨今、より重要視される視座である。

これらの研究成果は、次のとおり要約できる。

本論文は6章で構成される。第2章で建築物に対する建築専門家と一般市民との視点の違いを導入とし、第3章では建築的素養である建築図面の読図能力が建築教育課程において、どのように涵養されていくのかについて、大学に所属する建築学生と非建築学生を対象とした実際の空間を用いた実験を行ない、あわせて性格特性五因子(The Big Five)を測定することで読図能力との関連について考察している。その結果、学年を追うごとに建築学生と非建築学生の有意差が明確になることを明らかにしている。そして、建築学生の読図能力の涵養過程は、3年生の段階で傾向の変化があり4年生の段階で一定して備わること、特定の科目が読図能力の涵養過程に影響があることを述べている。また、非建築学生の読図能力は、中・高等普通教育の家庭科の範囲内では定着できておらず、その習得には建築系大学の2年生(短大や専門学校)程度の建築専門教育が必要になることを導き出している。建築学生の読図能力と性格特性五因子については、五因子のうち協調性の因子が読図能力に影響を与えることを明らかにしたうえで、性格特性五因子を取り入れた教育改善の提案につなげている。

第4章では建築の専門教育の前段階にある基礎造形教育について、実態と習得プロセスに対する問題を明らかにしたうえで、建築基礎教育の習得プロセスに基礎造形教育を効果的に組み込むための指導上の改善方法について考察している。その結果、指導者が中・高等普通教育の家庭科や美術の範囲内で理解できていると判断している単語でも、建築初学者はその意味や具体的な活用方法について理解できていない

状況が多分にあること、単語の単体の意味を理解していても、単語同士を関連付けて理解し活用することが難しいことを述べている。そして、指導者の指導上における改善策の一例として、指導者が基礎的な単語と捉えていても、その意味や具体的な活用事例を説明し、かつ単語を繰り返し用いる必要性があることを導き出している。

第5章では、地方自治体が建築初学者を対象に開催している実施コンペ(グランプリ案が実際に建設される)のプロセスを詳細に分析し、建築初学者が建物の計画を進めるにあたっての問題点を明らかにしたうえで、建築基礎教育を実務レベルに近づけるための強化点を考察している。具体的な強化点の一例として、構造計画の基本概念を理解させる、建築設計演習で構造計画を積極的に取り入れ、自らの計画に対して構造計画を感覚的に考えさせるといったことを述べている。

第6章では、得られた成果をもとに建築初学者を対象とした建築基礎教育の改善提案と、一部検証を行っている。検証では、第3章で性格特性五因子と読図能力の関連について得られた知見を踏まえて、学生の課題の取り組み状況について観察を行っている。その結果、第3章で得た性格特性五因子の特徴と符号する場面が確認されたことから、建築基礎教育の一手法として性格特性五因子を用いることの有効性を導き出している。

本論文は、これまでに明らかにされていない建築図面の読図能力の涵養過程について、建築を学び始めてから2年を経過した頃に転換点があることを明らかにしたこと、建築初学者に対する建築教育を実務レベルに近づけるときに不足している知識や理解の内容を明らかにしたこと、建築基礎教育の一手法として性格特性五因子を用いることの有効性が検証されたことに学術的価値がある。

以上の研究成果は、査読付学術論文8篇および査読付国際会議論文1篇において公表されている。学位申請者の一連の研究は、建築初学者を対象とした効果的な建築基礎教育体制の構築に寄与するところが大きい。さらに本論文の成果を応用することで、漸増が予想される公共建築更新時の市民共創を実現するプロセスに、重要な示唆を与えると考えられる。よって、本論文は博士(工学)の学位論文として十分に価値のあるものとして認められる。